

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 北海道留辺蘂高等学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒091-0026

北海道北見市留辺蘂町旭公園104番地5

E-mail rukou-z0@hokkaido-c.ed.jp

Website http://www.rukou.hokkaido-c.ed.jp/

幼児児童生徒数 男子 28 名 女子 43 名 合計 71 名

幼児・児童・生徒の年齢 15 歳～ 18 歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校は、ESDで育みたい力の中でも、コミュニケーション能力に重点を置いた教育活動を行っている。また、卒業後の社会で他者と共生し、自立していける生徒の育成を目指し、教科・分掌等でさまざまな工夫の元、優れた教育機会を提供している。

教育課程は大きく分けて、国際理解コースと福祉コースの2つがあり、それぞれにおいて特色のある教育活動を展開している。

今年度は特に、①人間関係形成・社会形成能力の育成に係わる教育活動、②福祉に係わる教育活動、③環境に係わる教育活動、④国際理解に係わる教育活動、の4つを主に行い、他者との関わりの中で学ぶ機会をより多く設けた。

①人間関係形成・社会形成能力の育成に係わる教育活動

「産業社会と人間」や、「LHR」、「総合的な学習の時間」を通して、構成的グループエンカウンター(SGE)やソーシャルスキルトレーニング(SST)などのコミュニケーショントレーニングを行い、担任・副担任を軸とした教員主導による集団カウンセリングを行った。

② 福祉に係わる教育活動

3年次の総合的な学習の時間において、地域を福祉の目線で見るとするために福祉マップを製作した。実際に車いすで散策し、歩行に支障がなくても車いすでは困難を伴う場所などを指摘し、問題提起を行った。その結果、実際に北見市がその道路補修を計画することとなり、新聞でも取りあげられた。

③ 環境に係わる教育活動

学校設定科目「環境科学」において、地元にあるNPO法人常呂川自然学校と協力して、河川実習を行った。また、実習を通して学んだことをユネスコスクール間の交流の際に発表し、その準備等をする中で活動の振り返りを図った。

④ 国際理解に係わる教育活動

学校設定科目「国際コミュニケーション」と「異文化理解」において、地元にある北見工業大学と連携し、海外からの留学生（ポーランド、モンゴル、サウジアラビア、トルコ）に来校してもらい、母国文化等を講義してもらう活動を行った。「異文化理解」では福祉科目の授業とも横断学習を行い、異文化の相互的な理解につとめさせることができた。また、上記の2つの科目で「世界一大きな授業」を行った。さらに、北見市で行われたアジア国際子ども映画祭に参加した、海外の高校生（韓国、ラオス）と交流授業を行った。



① コミュニケーショントレーニング・ジヨハリの窓



② 福祉ゼミによる福祉マップ紹介
(写真提供：『伝書鳩』)



③ 環境科学の河川実習



④ 3年次での「世界一大きな授業」

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 生徒会執行部の活動)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

- ・ 世界一大きな授業 2017
- ・ ユネスコスクールと持続可能な開発のための教育 (ESD) 今よりいいアースへの学び
- ・ 書き損じはがきのキャンペーン 2018

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校は、ユネスコスクールとしてESDを進めていくために、教育課程の中にその目標・ねらいを包括させ、各教科・分掌・年次全体でESDの活動を進めている。また、PDCAサイクルによって自分たちの教育活動をふりかえてより良いものにしていくために、前学期終了前と後学期終了前にESDふりかえりシートを作成している。これは全教員によるもので、4観点における達成度・反省・成果・課題などについて記入し、結果を分析して共有することで、指導方法の工夫改善に役立てている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

本校はキャリア教育の目標とESDのねらいを関連させ、教育活動の中にESDを浸透させて行っている。また、1間口の小規模総合学科であるため、教員数が多くないにもかかわらず、ユネスコスクール推進委員を1名とその補助をする教員を置き、ユネスコスクールとしてのESD活動の推進を、分掌の大きな業務分担の1つとしている。さらに、異動に伴って着任した教員に対しては研修会を設け、教員全体が共通してESDへの理解を深めるようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

内部評価としては、年に2回行っている活動評価のためのふりかえりシートを、全教員に記入してもらっており、今年度で3年目の実施となった。課題対応能力やキャリアプランニング能力については、年々達成度が上がってきており、教員一人一人がESDに対する理解を深め、実践してきている。

また、学校評議員による学校評価の中では、ESD活動について一定以上の評価をいただいております。今後本校が発展していくためには、ESD活動を推進していくことが必要だとのご意見をいただきました。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

ESDの活動を発信する方法としては、ホームページへの記事のアップと地元の新聞を通じた活動の紹介が挙げられる。特に、地元の新聞である『伝書鳩』に協力してもらって本校の行事や体験活動、訪問活動等を記事にしてもらい、広く地域の人たちの目に触れることで、本校が今どのような教育活動を行っているか、どのように地域に根ざそうとしているのかが伝わったと考える。現に、地元企業に総合的な学習の時間での活動協力など仰ぐ場合は、快く受け入れていただくが増えている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

地元の幼稚園・保育園・小学校や中学校、留辺蘂自治区の社会福祉協議会や町づくり協議会と、さまざまな機会において連携し、教育活動を行った。

NPO法人常呂川自然学校と連携し、理科の環境科学での河川実習を行った。また、市内にある北見工業大学とは国際交流の面で交流・協力をいただいている。特に英語科の授業においては、北見工業大学に留学に来ているさまざまな文化を持つ諸外国出身の学生複数名に、自分たちの母国を紹介してもらい講義をお願いし、同時に、留学生に対して生徒が日ごろ学んでいる授業の内容を発表することも行った。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

国内では、北海道上士幌高校との生徒会執行部レベルでの交流を始めて3年目になる。長期休業を利用してお互いの高校を訪問し合ったり、実際に行っているESDに関連した授業を紹介し合ったり、教員によるESDに対する理解を深める学習を行ったりしている。その中で、お互いに生徒会活動を活性化させるヒントを得て、自分たちの活動に活かしている。国外のユネスコスクールとは交流していないが、将来的には何らかの形で交流できればいいと思っている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

1年次での総合学科の教科である「産業社会と人間」および、2・3年次の「総合的な学習の時間」と選択科目を通して、地域の住民や団体との交流を深めてきた。そのことによって、生徒自身が地域に支えられている実感を得るようになり、地域のために自分たちには一体何ができるのかということを考えるようになった。また、ユネスコスクールの活動が、本校の教育活動の特色の1つとして、外部からも認められるようになってきた。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

・国際交流…北見工大の留学生を招いて自国の文化などについて講義をしてもらう活動をし、さらに生徒との交流を進める工夫をする（日常会話練習、教科を横断しての授業等）。また、昨年度と同様に、アジア国際子ども映画祭で北見を訪れる海外の生徒との交流授業を行う。

・河川実習…地元のNPO法人と協力して、環境科学の授業で地元の川へ行って生息する生物の状況や様子を調査し、研究する。

・コミュニケーション能力の伸長を図る活動…地域の幼稚園や保育所、小学校、中学校との出前授業や交流授業を企画、実施する。また、社会福祉協議会やまちづくり協議会とも連携して、主に福祉に係わる教育活動を実践する。各年次においては、コミュニケーショントレーニングも継続して行う。

・昨年度と同様に、福祉科を含む各教科でのESDの目標に基づいた教育活動を、キャリア教育の観点と関連させて、本校の教育活動の全体図を作成し、実践していく。